

平成22年度病害虫発生予報第11号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病	少	少
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	やや少	並
	菌核病	並	並
	灰色かび病	やや少	やや少
	ミナミキイロアザミウマ	やや少	並
	コナジラミ類	やや少	並
トマト	黄化葉巻病	やや少	やや少
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類	やや少	並
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	並	並
たまねぎ	べと病	並	並
	白色疫病	並	やや多
	ネギアザミウマ	並	並
ブロッコリー	黒腐病	並	並
	べと病	やや少	やや少

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.3%(3.7%)、発生圃場率は8.3%(36.5%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は4.8%(6.6%)、発生圃場率は66.7%(66.7%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.1%(3.3%)、発生圃場率は41.7%(41.1%)であった。

イ 向こう一か月の気温は高く、降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 窒素質肥料の多用を避ける。

イ 高温多湿時に発生が多いので、高温時の換気を図る。

ウ 発病が多くなってからは防除が困難となるので、発生初期に防除を徹底する。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.0%)。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.1%、発生圃場率5.2%)。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率0.6%、発生圃場率15.8%)。

イ 向こう一か月の気温は高く、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は黄化えそ病を媒介するので、侵入防止に努めるとともに、黄色粘着トラップを施設内に設置し、早期発見・早期防除に努める。

イ 하우스内および周辺の雑草は本虫の生息・増殖源となるので除去し、環境衛生に努める。

ウ 本虫は芽に潜り込みやすいので、芽かきした摘葉は残さず集めて施設外に持ち出し、土中に埋めるか、ビニール袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。

エ 強い薬剤抵抗性を持つので、防除薬剤の選定にあたっては十分留意する。また薬剤抵抗性対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.3%(1.8%)、発生圃場率は16.7%(27.3%)であった。

イ 向こう一か月の気温は高く、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は退緑黄化病を媒介するので、侵入防止に努めるとともに、黄色粘着トラップ

- を施設内に設置し、早期発見・早期防除に努める。
- イ 強い薬剤抵抗性を持つので、防除薬剤の選定にあたっては十分留意する。また薬剤抵抗性対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.2%(過去6ヵ年0.6%)、発生圃場率は16.7%(同27.1%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は8.3%(12.2%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.3%(寄生株率0.5%)、発生圃場率は8.3%(17.3%)であった。

イ 向こう一か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、葉での発生は認めなかった(発病株率0.4%、発生圃場率6.9%)。発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は3.7%(3.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発すると防除が困難になるので、早期発見、早期防除に努める。

イ 発病葉や発病果実は伝染源となるので、圃場外へ持ち出し、適切に処分する。

ウ 発生を認めたら治療効果のある薬剤を1週間程度の間隔で散布し、防除を徹底する。

エ 薬剤は、葉裏や下位葉にもむらなくかかるように十分量を散布する。

オ 薬剤耐性菌発達の防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

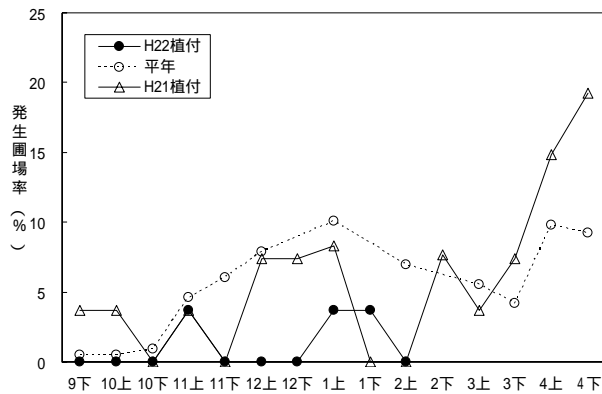


図 いちごうどんこ病 発生圃場率の推移

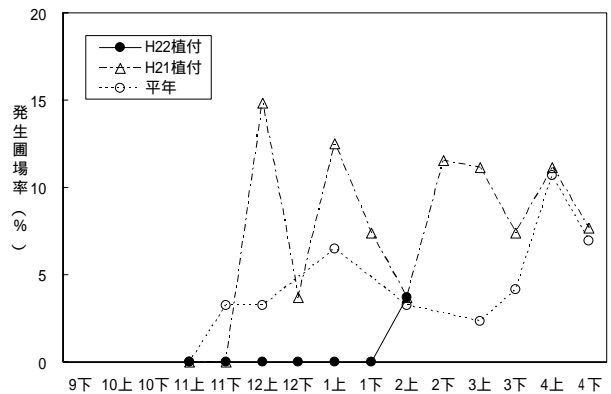


図 うどんこ病(果実)発生圃場率の推移

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は7.4%(15.3%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.7%(0.6%)、発生圃場率は11.1%(8.8%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は3.0%(3.9%)、発生圃場率は29.6%(30.5%)であった。

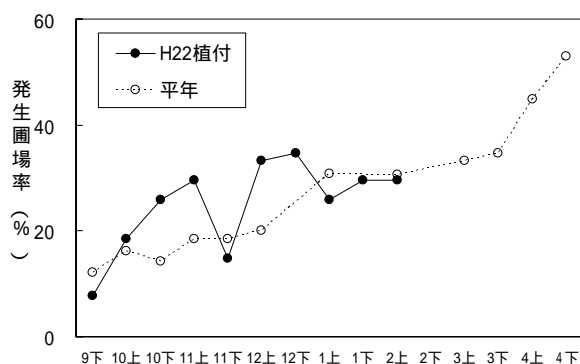


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

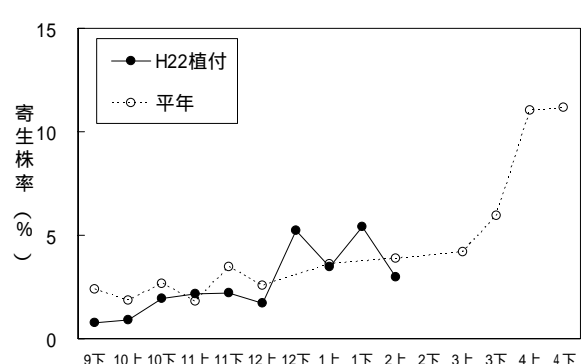


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

たまねぎ

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.8%)。

2. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は6.7%(8.3%)であった。

イ 向こう一か月の気温は高く、降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 排水につとめ、過湿を避ける。

イ 圃場観察を行い早期発見に努め、発生を認めたら速やかに薬剤防除を行う。

ウ 罹病した葉、枯死した葉は感染源となるので、適切に処分する。

3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は13.6%(16.6%)、発生圃場率は73.3%(66.7%)であった。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去3年平均発生を認めない)。

2. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

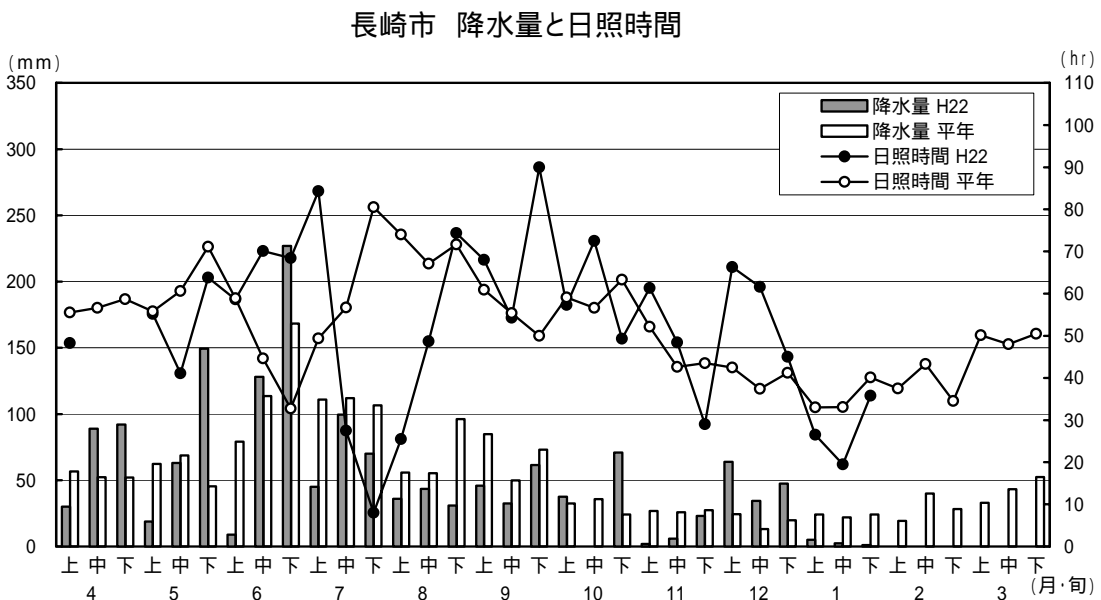
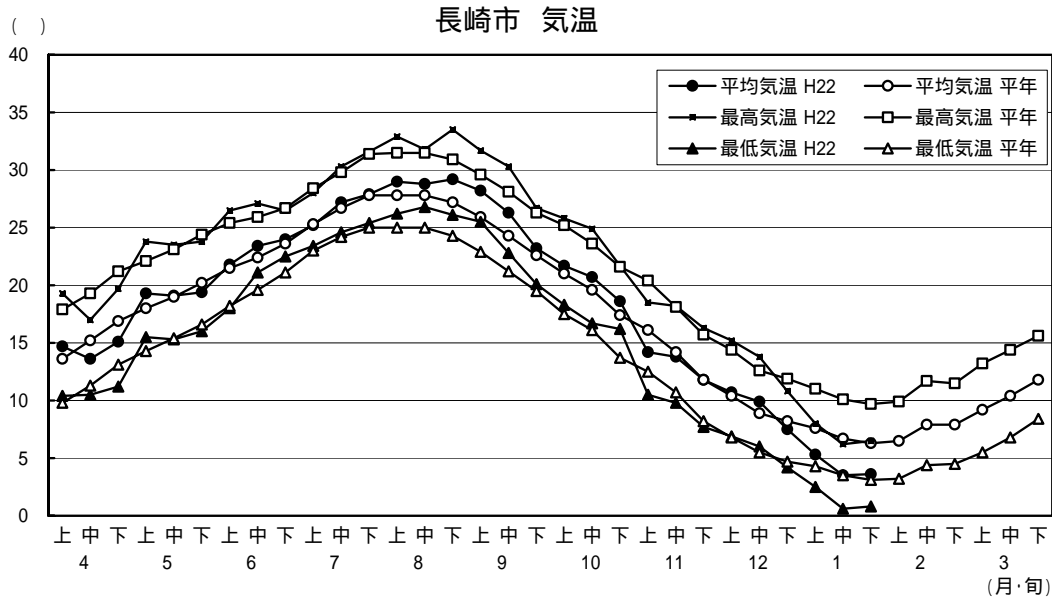
2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去3年平均発病株率1.1%、発生圃場率18.6%)。

【参考】

気象 (平成23年2月11日発表 1か月予報 福岡管区气象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	30	40
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域
平成22年度の気象経過



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027